

和泉プラザ 「地域の歴史的総合調査」の取り組み

大阪市立大学日本史研究室と和泉市教育委員会で、毎年夏に実施する和泉市合同調査を、主要な活動として位置づけています。毎年、和泉市内の1つの町会を対象に、地域の歴史を多様な方法から総合的に調査し、地元住民とともに地域の生活構築の歴史を学んでいます。

2009年度 和泉市合同調査(第13回)に向けて

住民とともに地域の歴史を総合的に調査する和泉市合同調査は、本年度、和泉市納花町を調査地として、2009年9月28日(月)～30日(水)の2泊3日で行うことになりました。納花町は和泉市を南北に走る池田谷の南部、槇尾川左岸に位置し、近世の納花村が近代に南池田村大字納花となり、現在に至っています。納花集落は、1873(明治6)年に家数54軒・人口237人、2009年5月末現在は278世帯・人口793人からなります。

第1回実行委員会は5月13日(水)に開かれ、実行委員長 藤井正太(文学研究科D1、G-COE特別研究員)を中心に調査地の決定、日程の調整などを進めてきました。今後は調査地についての下見や事前勉強会、初参加者対象ガイダンス、パンフレットの作成などを随時行いながら、当日の具体的な調査内容・方法について議論し深めていきたいと思えます。 << 久角健二(和泉プラザRA)



和泉市納花町の位置

2009年度和泉市合同調査—和泉市納花町—

2009年9月28日(月)～30日(水)、和泉市納花町を対象に和泉市合同調査を実施した。大阪市立大学日本史研究室の学部生・院生を中心に、OB・教員・和泉市史編さん室などから、計53名が調査に参加した。調査当日は5つの班に分かれ、地域に残る古文書の調査、地元の方々からの聞き取り調査、現地踏査などを行い、時代を超える地域の生活構築の歴史をあらゆる側面から考察することをめざした。また最終日には、納花町民会館において町会の方々を招き3日間の調査報告会を開いた。

地元町会の全面的な協力により、集落と山の関係や水利を中心に、これまで明らかにされていなかった納花の歴史と現在の状況が明らかになってきた。今年の合同調査の成果をもとに、『市大日本史』13号(2010年5月刊行予定)に報告書を掲載する。 ■久角健二(和泉プラザRA)



聞き取り調査風景

和泉市室堂町・横田滋氏所蔵史料調査

和泉プラザでは現在、2009年9月に和泉市納花町を対象に実施した合同調査について、その成果をまとめた報告書作成に取りかかっている。

また、和泉市室堂町の横田滋氏所蔵史料について、2009年9月7日(月)～9日(水)に第一次調査、続いて2009年12月14日(月)～17日(木)に第二次調査を行った。横田家は、近世に池田谷七ヶ村(三林・室堂・和田・万町・浦田・鍛冶屋・池田下)を氏子にもつ三林村春日神社の神主を務めた家であり、その関連史料が残されている。すでに所蔵者自身が史料の一部を整理・翻刻し、史料集『泉郡三林村春日社古文書』で紹介しているが、今回の調査によって大量の未整理の古文書を発見することができた。本史料群によって、神社を中心とした和泉・池田谷の地域社会の解明が進むことになるだろう。

■久角健二(和泉プラザ研究補助スタッフ)



史料群の保存状況を記録している様子